

(益田牧子議員の一般質問報告 NO.1)

道理のない「花畑地区ひろば計画」20 億円は撤回を!

原点に戻り「産文会館」再開が筋

3月8日、益田牧子議員は、一般質問を行い、「壊すのはもったいない」と築32年の産業文化会館再開を求めました。産文会館は、改修計画をやめ、雇用促進事業会（島田俊郎社長）が進めていた花畑再開発に参加。しかし、昨年、花畑再開発は破たん。原点に戻り、改修に立ち返るのが筋です。

15 億で民間ビルまで購入

益田牧子議員は、産文会館を取り壊し広場にする20億円の予算の撤回を求めました。幸山市長は、「ビルがあると熊本城の眺望が悪くなるので、買収は必要」と述べました。

産文会館解体費：4億7000万円
民間用地費：約4億円
民間建物補償費：約11億円

3月12日、産文会館の再開を求める会が第1次分5515人分の署名を提出しました。



当面は、仮バスターミナル?

幸山市長は、20億円の広場を当面、バスターミナルに利用することを表明しています。花畑・桜町再開発計画があった時には、バスターミナル構想はありませんでした。桜町再開発のバスターミナル機能は、事業者の責任で用意するべきです。

大型会議場建設を止めて 私たちの税金は、暮らし・福祉・教育へ!

市民の切実な暮らし・福祉・教育の要求には冷たい幸山市政。大型ハコモノを作れば、莫大な建設費・維持費がかかります。市民の切実な要求に必要な財源はあります。

(市民要求に必要な予算額～こちらを最優先へ)

* 肺炎球菌ワクチン助成 (75歳以上・1人3000円)

→3700万円 (接種率15%で試算)

* 基本健診の無料化→3600万円 (受診率40%で試算)

* 子どもの医療費中学校まで無料化→6億5000万円

* 重度障がい者医療費の現物給付→約11億円

* 普通教室エアコン設置→約45億円 (電気代約2億2千万円)

* 小学校4～6年生、中学校普通教室へのストーブ設置
→1億円 (熊本市試算)

築46年市民会館は、長期保全・修繕計画推進

1967年(S42)建設の市民会館は、04年(H14)に長期保全・修繕計画を策定し、計画的な改修を進めています。

* 第1期(H15~19): 耐震、内装、バリアフリー、空調改修工事等、(16億6千万円) * 第2期整備(H23~26) 防水、音響、舞台設備等 * 第3期(H27~44) (総額50億円)

益田議員は、「産文会館は、02年(H14)トイレ改修が終了し、空調、大ホール設備、内装工事などが予定されていた。市民会館と同じように、再開し、改修を行うべき」と求めました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市中央区手取本町1-1 議会棟 ホーム: <http://www.jcp-kumamoto.com/>

NO. 841

2013年3月

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp



市民不在の大型会議場・建築費2百数十億円!

財政見通しのない大型施設

幸山市長は、「国内外から選ばれるコンベンションシティを実現するに当たっては、他の指定都市との大型会議場競争に負けない都市機能充実を図る必要がある」と、大きな施設をつくることを最優先。積算も示さず、2百数十億円の建設費を提示。

一方、熊本市近郊での2011年度コンベンション開催件数は、グランメッセの開催108件を含めて300件でした。分野別では、スポーツが125件(41.7%)、経済産業65件(21.7%)、教育・福祉52件(17.3%)、医学・薬学33件などです。

3000人規模の利用は、県のグランメッセと連携を!

熊本市は、大型会議場の利用見込みを、施設の規模や形式が類似している福岡国際会議場の実績をそのまま活用。参加者数は40万人、経済波及効果は160億円と見積もっています。大きな箱を作れば、人が来るといわずさんな計画となっています。

2011年度熊本市周辺のコンベンション開催状況

参加者数 (人)	件数	構成比 (%)
20～99	61	20.3
100～199	84	28.0
200～299	50	16.7
300～499	42	14.0
500～999	38	12.7
1000～1999	19	6.3
2000人以上	6	2.0
計	300	100.0

規模別では、上記表のように、200人以下が半数、500人以下では8割を占めます。2000人以上は、わずか6件、うち、スポーツ関係が3件で半数を占めます。

益田牧子議員は、県のグランメッセは、物産館や会議室増設などの拡充計画があることを紹介。1000人規模であれば、「民間ホテルも合わせて、産文ホールを再開し、既存施設で、十分対応できる」と大型会議場建設ありきを批判しました。

幸山市長は、市民参加の公約を守り

「住民投票」で、産文会館再開の是非判断を!

益田牧子議員は、中心市街地ど真ん中で、まだ20年以上使える建物を、市長の一存で、まともな根拠もなく解体する計画を厳しく批判。「自治基本条例に基づく住民投票を実施し、ハッキリさせるべき」と幸山市長を質しました。

幸山市長は、「産業文化会館の再開は考えておらず、住民投票を実施することは考えていない」と答弁。幸山市長の1期目の公約は、『情報公開と市民参加』『住民投票条例の制定』『計画段階からの住民参加』でした。益田牧子議員は、「聞く耳持たずの対応は、最大の公約違反だ」と厳しく糾しました。

市営住宅、公共施設、学校の改修を!

熊本市では、遅れている市営住宅の「長寿命化計画」が3月末に策定されます。公共施設も、体育施設やコミュニティセンターなど約270施設の長寿命化を図るための「中長期保全計画」の策定作業が進められています。

文科省は、学校施設について、「事後保全」型から「予防保全」型へ、長寿命化への転換を指摘しています。熊本市では、築後40年以上経過した建物が、体育館25校、プール15校、校舎約150棟もあります。益田議員は、「維持補修・改修に転換し、予算の増額」を要望しました。